

中期計画2015

平成24年3月

一般社団法人
保健医療福祉情報システム工業会

目 次

1. 中期計画2010の振り返り	1
2. 中期計画2015	2
3. 戦略企画部	5
4. 総務会	7
5. 標準化推進部会	10
6. 医事コンピュータ部会	14
7. 医療システム部会	18
8. 保健福祉システム部会	26
9. 事業推進部	38

1. 中期計画2010の振り返り

中期計画2010は昨年度、中期計画2009の見直し延長としてH23年度～25年度について策定した。H23年度の途中であるが、現段階での状況は以下の通りである。

(1) 目標設定

「プロアクティブな取り組みを行いヘルスケアIT業界市場の健全な発展を目指す」を目標に掲げ政府の情報通信技術戦略に向けた対応に積極的に関わり、標準化の普及推進の取り組みを実施する。

具体的には、経済産業省事業の受注や産官学での定期的意見交換活動、政府主導の新たな技術戦略計画への対応活動である。様々な機関において、標準化への取り組みへの姿勢の変化が見られ、今後、一層の取組み強化が望まれる。

(2) 施策について

施策目標1：既存事業維持と新規市場開拓に向けた取組み推進

昨年度に比しトータルな売上高に大きな変動はないが、実証実験取組みや標準化への啓発活動により確実に利用者を含め意識の変化ができてきているように見える。売上高への反映や市場拡大に向けて対応の継続を図る。

施策目標2：工業会参画価値の醸成と外部向けプレゼンス向上

H23年12月現在会員数が過去最大数に達しており、更に増える傾向を示している。会員の要求にできるだけ速やかにこたえられるようよりきめ細かな対応を図る。また、産官学でのJAHIS位置付けを明確化するべく活動の強化を図る。

施策目標3：一般社団法人としての運営基盤確立

事務所移転及び環境整備の構築を実施した。会議体が活発化されている。今後の運営の仕組みを検討・構築し、永続的な体制等の基盤構築を図る。

2. 中期計画 2015

(1) 業界を取巻く環境変化と今後の動向

東日本大震災という未曾有の災害が発生し、医療の事業継続という観点からIT活用の重要性が改めて認識され、BCPなどリスク対策への関心が高まっている。一方で復興を通して新たな成長戦略が掲げられ、多くの事業やプロジェクトが進められている。政府が掲げた新成長戦略についても震災の影響を踏まえ検証が行われ、「日本再生の為の戦略に向けて」としてあらためて健康大国戦略が示され、2020年までに実現すべき成果目標や工程を堅持することが確認された。

一方わが国における医療情報化については、2010年に示された「新たな情報通信技術戦略」をベースに「医療情報化に関するタスクフォース」等での検討が進められ、また各省庁においては調査事業や実証事業などが実施され、推進が図られている。地域連携医療については2次医療圏を越えた連携事例が出てきており、地域連携医療システムが基盤システムとして展開されつつある。

またIT業界の側面から見ると、スマートフォン市場の拡大やクラウドを活用したサービスの提供など、新たな市場が形成されつつある。ただし、医療分野で扱う情報については機微な情報であることから、セキュリティ面や法的に十分な対策が必要となり、様々な課題に対し検討が進められている。

さて、わが国では今まで国民皆保険制度の下、低コストで質の高い医療サービスを国民に提供してきたが、国民医療費については36.6兆円と8年連続で過去最高を更新している状態である。そのような中、新たな仕組みや価値観を創出する検討が進められている。その1つが「社会保障と税の一体改革」である。持続可能な社会保障制度を作るため医療・介護のあるべき姿の検討も進められている。

さらにはグローバルの観点では、TPPの参加にかかわる検討も始まった。既に医療の国際化という観点では、インバウンド（国内医療機関への外国人患者受け入れ）やアウトバウンド（日本の医療サービスの輸出）などのプロジェクトも進んでいるが、今後グローバルを意識した取り組みが加速していくものと思われる。

今後、社会保障改革が進み、年金、医療、介護の各制度の建て直しが進むものと思われるが、そのような中、ヘルスケアITを担うJAHISへの期待はますます高まるものと考えられる。

このような大きな動きを踏まえ、2015年中期計画では4年先を見据え、下記の運営方針の下に業務を遂行する。

(2) 運営方針

- ① 2020ビジョンで描くヘルスケアITの実現に向けた推進【国民・ユーザ向け】
標準化関連事業への参画に向け各部会との運営連絡を密にし、継続した体制構築の検討。新たな政府の技術戦略政策の対応活動の実施。
- ② 工業会参画価値の追求、健全な市場の維持・発展【会員向け】
標準化推進活動を通して、産官学でのプレゼンス明確化と事業展開。アジア戦略等グローバルな対応を検討する体制の構築推進及び新規ビジネス機会創出や会員向けサービスの向上を推進。
- ③ JAHISブランドの向上、永続的な運営基盤の確立【運営基盤】
基盤強化と会員サービスの向上を行う事業推進体制の構築。
人材の確保と育成の仕組み検討。

(3) 主要な推進施策

- ① 2020ビジョンで描くヘルスケアITの実現に向けた推進
 - ・標準化の策定、普及
行政官庁等における標準化促進事業の取組みに対し共通基盤整備等積極的な対応を行うほか、JAHIS標準類の整備・普及や各種マスタの普及推進活動に取り組む。
また、「新たな情報通信技術戦略」等の政府施策への対応についても標準化普及の一環として活動に取り組む。
 - ・システムの品質向上に向けた取組み
各種制度改定等においては、提言等積極的な対応活動を行い、情報の早期把握と発信を図り円滑な移行等品質向上対応に努める。またセキュリティや患者安全等に関わる利用者対応の活動に取り組む、安全・品質の向上推進に寄与していく。
- ② 工業会参画価値の追求、健全な市場の維持・発展
 - ・ヘルスケアIT適正評価の推進
ヘルスケアITに関わる機関間の連携活動を強化し、工業会プレゼンス向上に努める
また、公的委員会等の活動に参画し提言等情報の発信に取り組む。利用者側の関連機関等と連携しヘルスケアITの普及啓発の活動に取り組む。
 - ・グローバル化に対応した海外市場の開拓及び新規ビジネス機会創出
既存事業の維持及び新規事業機会の創出に努め、各種調査活動特に海外等グローバル化対応に向けた取組み推進を図る。新技術の動向に留意し、新たなビジネス形態等の展開に対し安全・安心に関わる観点等の取組み活動を推進する。
会員向けサービスにおいてはタイムリーな情報収集、情報提供等の活動推進に取り組む。
 - ・業界自浄化作用の仕組み作り
産官学におけるコミュニケーション活動を推進し、関連課題等に関わる連携した活動推進に取り組む。
会員向けに各種情報の発信に努め、産業界の健全な発展に寄与していく。
- ③ JAHISブランドの向上、永続的な運営基盤の確立
 - ・法人化後の事業運営基盤の定着と展開
JAHIS活動において、自主／受託事業の展開推進及び運営体制、各種環境等の強化を図る活動に取り組む。
また、展示博覧会等外部向け情報発信の活動を展開していく。
 - ・人材育成と確保
JAHIS活動の中核を占める委員会や部会活動の人材育成や若手の活動推進のための取組みを行う。また、JAHISのOB等のノウハウ者が活躍できる仕組みの検討を推進する。
 - ・産官学との協調
産官学の各種機関との連携や協業のための環境作り及び交流を積極的に展開し産業界の発展に寄与していく。

上記施策に関わる主な部会対応について表1に示す。

表1 中期計画2015 施策マトリックス

	戦略企画部	総務会	推進部会 標準化	ピ 医 事 タ 部 会 コン	医 療 シ ス テ ム 部 会	シ 保 健 福 祉 部 会 ス テ ム	事 業 推 進 部
1. 2020ビジョンで描くヘルスケアITの実現に向けた推進(国民・利用者向け)							
標準化の策定、普及							
標準化推進関連事業への参画推進(受託事業、自主事業)	○		○	○	○	○	
JAHIS標準類の整備／各種マスタ、標準システム等普及推進			○	○	○		
新たな情報通信技術戦略等政府施策への対応	○						
システム品質向上に向けた取組み							
各種制度改定の対応				○		○	
ソフトウェア安全・品質企画対応			○		○		
2. 会員企業の工業会参画価値の追求。健全な市場の維持・発展(会員向け)							
ヘルスケアIT適正評価の推進							
産官学連携強化／プレゼンスの向上	○						○
対外活動(委員会等)推進と情報発信	○		○	○	○	○	
利用者向け普及・啓発対応	○						○
グローバル化に対応した海外市場の開拓							
新規市場及び技術動向の調査及び情報提供活動推進	○			○		○	
会員ビジネス機会の創出の取組み推進	○			○		○	
業界自浄化作用の仕組み作り／新規ビジネス機会の創出活動取組み							
運営基盤強化と関係機関連携活動の強化	○	○	○	○	○	○	○
新規事業創出取組み活動推進	○			○		○	○
会員サービス見直し活動の推進	○	○	○	○	○	○	○
3. JAHISブランド(存在価値)の向上。永続的な運営基盤の確立(運営基盤)							
法人化後の事業運営基盤の定着と展開							
運営基盤強化(体制、環境、事業等)	○	○		○	○	○	○
展示博覧会等への積極的展開	○						○
人材の育成と確保							
保健医療福祉情報システムの人材育成	○	○	○	○	○	○	○
中核人材確保と若手人材登用	○				○	○	
産官学との協調							
連携／協業の環境作りと展開	○	○	○	○	○	○	○
対外活動(委員会等)の推進	○		○	○	○	○	
	戦略企画部	総務会	推進部会 標準化	ピ 医 事 タ 部 会 コン	医 療 シ ス テ ム 部 会	シ 保 健 福 祉 部 会 ス テ ム	事 業 推 進 部

中期計画基本方針・取り組み方法

部門名	戦略企画部
1. 基本方針	<p>戦略企画部はJ A H I S全体の戦略策定のための市場調査・予測と具体的戦略立案及び全体調整を行う。運営方針に基づき組織としての信頼向上のため基本方針は以下とおりとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 2020ビジョンで描くヘルスケアITの実現に向けた推進：標準化関連事業推進のため各部会との運営連絡の緊密化と継続した体制の構築推進。政府施策への対応活動。 ② 工業会参画価値の追求、健全な市場の維持・発展：標準化普及推進を通して産官学におけるプレゼンス明確化とアジア戦略等検討体制構築と推進及び会員サービス見直し活動の推進 ③ J A H I Sブランドの向上、永続的な運営基盤の確立：運営体制の基盤強化と事業推進体制の構築推進。人材確保と育成の仕組み検討の構築
2. 取り組み方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 課題 <p>基本方針に基づいた取り組みを推進するため、J A H I S全体に関わる課題としては以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 事業推進体制の脆弱性に対する対応策の構築 ② 人材確保と育成の仕組みの具現化を推進 ③ グローバル化対応検討を具体的に検討し展開を推進 ④ 産官学との協調活動推進 ・ 具体的な対策、担当する委員会・WG・PJ <ul style="list-style-type: none"> ① 調査委員会を中心に既存調査、新たな調査項目等の検討。 既存調査精度の向上の他新たな医療連携等の医療情報システムの実態の調査検討について各部会と協力して行う。 ② 企画委員会を中心に市場のさらなる健全化に向けた諸活動を各部会の協力のもと、関係省庁・団体と連携して実施する。 ③ 基盤検討委員会は政府等政策対応のJ A H I S活動の整合性や課題整理を中心に各部会と協力して行う。 ④ IT適正評価推進PJを中心に産官学連携した対応活動の推進を行う。 ⑤ 検討準備のため準備委員会や新たなTF等を立上げ、事業推進体制及び人材確保推進の仕組み、海外ビジネス対応の検討を行う。 ・ 期待できる成果物 <ul style="list-style-type: none"> ① オーダリング、電子カルテ導入調査報告と労働環境調査報告（仮称）（調査） ② 顧客向け資料「医療ITを安全かつ効率的に運用するために」（仮称）（企画） ③ 医療ITのインセンティブ評価（仮称）（IT適正評価） ④ 組織体制報告（仮称）（戦略） ・ 想定される問題点 <ul style="list-style-type: none"> ① 適正リソース（予算、要員等）の確保 ② 各部会とのタイムリーな連携 ・ 完了目標時期（マイルストーン） <ul style="list-style-type: none"> 2012年6、12月：売上高調査報告 2012年6月：労働環境調査報告（仮称） 2013年1月：組織体制報告（仮称） 2013年3月：オーダリング・電子カルテ導入調査報告 2013年3月：医療IT安全運用資料（仮称）

中期計画スケジュール					
部門名 : 戦略企画部					
項目	取り組み方法	平成24年度 2012年度	平成25年度 2013年度	平成26年度 2014年度	平成27年度 2015年度
主要なイベント		診療報酬・介護報酬 同時改定(4月)	新高齢者医療制度	医療診療報酬改定 レセプトオンライン請求最終年度 共通番号制度(マイナンバー)	介護診療報酬改定
市場把握	市場調査 (売上高、導入実績)	←→ 計画・実施	←→ 計画・実施	←→ 計画・実施	←→ 計画・実施
	市場規模予測 (隔年発行)		←→ 計画・実施		←→ 計画・実施
労働環境把握	医療IT従事者の労働環境 調査・分析	←→ 分析/対応策検討	←→ 見直し・実施	←→ 分析/対応策検討	
市場拡大支援	医療ITのインセンティブ評価	←→ 計画・分析	←→ 対応・提案	←→ 見直し実施	←→ 見直し実施
	海外戦略対応	←→ 調査・分析検討	←→ 推進施策の実証	←→ 評価・対応	←→ 見直し実施
運営基盤の定着と展開	組織体制強化 (事業推進含む)	←→ 検討実施	←→ 見直し実施	←→ 見直し実施	
	人材確保と育成対応	←→ 検討実施	←→ 見直し実施	←→ 見直し実施	

中期計画基本方針・取り組み方法

部門名	総務会
1. 基本方針	<p>総務会は、法人としての適切な運営を維持しつつ、会員数の増加、事務所内の各種環境整備、及び内部・外部共に適切な情報発信・情報提供向上を目標に掲げ活動する。</p> <p>JAHISは医療機関を支える重要な業界団体として、今や内外の主要な機関からも意見を求められるなど、活動に対しての期待が大きい。一般社団法人化したことで対外的なステータスは上がっているが、更なる運営の透明性をアピールし、コンプライアンスを順守しながら、より社会の期待に応えることができるような団体を目指す。</p> <p>以上のことを踏まえ、総務会の方針を以下の通りとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①法人としての適切な運営や体制の整備を支援し、産・官・学・医との連携や協業ができる環境作り ②事務所における執務環境をハード、ソフト両面において改善・整備 ③会員に対するタイムリーな情報提供、及び外部への適切な情報発信
2. 取り組み方法	<p>・課題</p> <p>法人化した工業会として更なる社会の信頼や、会員並びに中央省庁の期待に応えることができる団体を目指し、以下の課題に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①工業会の活性化と健全な運営する為の会員数の確保 ②法人としての各種基準の準拠と対応の整備 ③執務環境の整備 ④情報提供・情報発信の為のコンテンツ整備 ⑤情報システムの整備 ⑥セキュリティの強化
	<p>・具体的な対策、担当する委員会・WG・PJ</p> <p>上記の課題に対し、以下の施策を推進する</p> <ul style="list-style-type: none"> ①JAHISの標準化活動、事業推進活動、並びに行政動向の情報収集活動等を積極的にアピールし、JAHIS会員のメリットを理解してもらうことで業界中のカバー率を上げると同時に対象となる業界の範囲を拡大することも検討する。 ②法人としての各種コンプライアンスを継続しつつ、整備・改善を行う。 ③事務所において活性化されつつある各種会議やセミナー会場として、防犯・防災体制や、更に会員の利用が増えるような施設・設備の拡充・整備を実施する。 ④JAHISアーカイブ（仮称）を整備・推進することで、会員に対し価値のある情報をタイムリーに提供しつつ、外部に対しても適切な情報発信を行う為のコンテンツ整備を実施する。 ⑤情報インフラ整備を推進し、システムの信頼性及び安定性の向上を図りつつ、JAHISアーカイブに対しても対応・整備する。 ⑥各種情報システムのセキュリティを整備・強化し、法人として適切な管理を行う。
	<p>・期待できる成果物</p> <ul style="list-style-type: none"> ①会員収入の増加による活動資金の改善 ②法人として各種規則・規定類の整備・改善 ③防犯・防災体制、事務所内施設の各種環境整備 ④JAHISアーカイブの構築 ⑤サーバー、ネットワーク等の更新・整備 ⑥情報セキュリティの整備・強化

中期計画基本方針・取り組み方法

部門名	総務会
	<ul style="list-style-type: none">・ 想定される問題点<ul style="list-style-type: none">① 会員数及び会費収入の伸び悩み② J A H I Sアーカイブ（仮称）の構築及び運営に関する費用の増大③ 情報セキュリティに対するコストの増大と効果の把握
	<ul style="list-style-type: none">・ 完了目標時期（マイルストーン）<ul style="list-style-type: none">2012年 防犯・防災体制、事務所内施設の各種環境整備完了2013年 J A H I Sアーカイブ（仮称）の構築完了

中期計画スケジュール					
部門名 : 総務会					
項目	取り組み方法	平成24年度 2012年度	平成25年度 2013年度	平成26年度 2014年度	平成27年度 2015年度
主要なイベント					
1. 会員数の確保	各種活動等を積極的に外部にアピールし、会員のメリットを理解してもらう	●————→	●————→	●————→	●————→
		外部発信を通し、会員の確保に務める			
2. 法人としての各種整備・改善	各規定類、事務局業務や体制を見直し、法人として適切に運営する。	●————→	●————→	●————→	●————→
		各規定・規則類の追加・修正			
3. 事務所内環境の整備	防犯、防災体制の強化、及び施設設備の拡充・整備を実施する	●————→	●-----→	●-----→	●-----→
		施設・設備の拡充・整備	維持		
4. 情報提供・情報発信の 為のコンテンツ整備	JAHISアーカイブ(仮称)を整備・推進	●————→	●————→	●-----→	●-----→
		データベース整備、情報提供		拡充・整備	
5. 情報システムの整備	サーバー、ネットワーク等の安定性・信頼性の更新・整備	●————→	●————→	●-----→	●-----→
		情報インフラの更新・整備	拡張・拡充	維持・整備	維持・整備
6. セキュリティの強化	情報セキュリティの強化・対策	●————→	●————→	●————→	●————→
		不正アクセス、電子メール等のウィルス対策			

中期計画基本方針・取り組み方法	
部門名	標準化推進部会
1. 基本方針	<p>2012年度より地域再生基金対応の本格的活動が予想され、標準化類の普及元年とすることが重要であると考え。また、「新たな情報通信技術戦略」も発表され、地域医療連携の発展形として、医療ITの付加価値向上へ向けた構想と認識している。これらについても標準化がポイントと考え、行政や学会と連携し推進する。JAHIS標準化マップについては、具体的な実行時期とし、進捗フォローアップを推進する。医療ITが患者安全に寄与するよう、JAHIS標準類の整備推進と医療機器ソフトウェア規制の在り方の検討を行う。海外標準との矛盾が無いよう海外標準化団体との調整や日本の有効な標準類の国際の場への推進を行う。これらの活動により、会員各社に直近のビジネス活動に役立つ標準類の作成及び普及の推進を目指す。</p>
2. 取り組み方法	<p>・ 課題</p> <p>わが国においても、広く医療情報の標準化推進の議論がされるようになってきた。今後の大きな課題は、医療ITの普及、標準化の普及、患者安全への取り組み等と認識している。</p> <p>・ 具体的な対策、担当する委員会・WG・PJ</p> <p>(1) 標準化推進部会本委員会 JAHIS標準化施策の策定・実行の推進</p> <p>① HELICS協議会幹事会員・厚生労働省 保健医療情報標準化会議委員を基軸に推進</p> <p>② 関連省庁の事業・委員会への参画による推進</p> <p>③ 関連団体との連携による推進</p> <p>(2) 国内標準化委員会</p> <p>① JAHIS標準類の迅速な審議</p> <p>② 関連する標準化に関わる規程の整備・保守</p> <p>③ HELICS協議会等関連団体との標準化に関わる整備</p> <p>④ JAHIS標準化マップの進捗フォローアップと定期的見直し</p> <p>(3) 国際標準化委員会</p> <p>① 国際標準に対するに日本の対応に関する検討</p> <p>② 国際標準のJAHIS標準への展開及びJAHIS標準の国際標準化提案</p> <p>③ JAHIS会員に向けた国際標準化動向の情報発信</p> <p>④ HIMSS(米国)の定点調査と会員向けツアー一催行</p> <p>(4) 普及推進委員会</p> <p>① JAHIS標準の普及のための意識向上</p> <p>② 普及推進用パンフレットの作成と認識度調査</p> <p>③ 普及推進用パンフレットのWEB化</p> <p>④ 標準化技術採用の評価。調査委員会との連携</p> <p>(5) 安全性・品質企画委員会</p> <p>① ISO/JTC215WG4及び国内作業部会の参画</p> <p>② JIRA/JEITAとの連絡会による単独ソフトウェア薬事対応</p> <p>③ 患者安全に関するガイドライン策定(医療システム部会と連携)</p> <p>・ 期待できる成果物</p> <p>① JAHIS標準化マップ(メンテナンス版)</p> <p>② 普及推進用パンフレット(第二版、第三版)</p> <p>③ 患者安全に関するリスクマネジメントガイドライン(解説編)技術文書改訂</p> <p>④ ISO/TC215_WG4関連へのJAHIS意見を反映した国際標準規格策定</p> <p>⑤ 各種国際標準化関連国際会議参加報告書類</p>

中期計画基本方針・取り組み方法	
部門名	標準化推進部会
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 想定される問題点 <ul style="list-style-type: none"> ① 将来の姿である日本版EHR/PHRの構想が出ているが、その具体像は、不明であり、誰が取り纏め推進するかが明確になっていない。 ② 単独ソフトウェア薬事に対しJIRA, JEITA, JAHIS三工業会の考え方の調整。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 完了目標時期（マイルストーン） <ul style="list-style-type: none"> ① JAHIS標準化マップ（メンテナンス版）：毎年 ② 標準化推進パンフレット（医療情報システム標準化関連用語）：毎年 ③ 患者安全に関するリスクマネジメントガイドライン（解説編）の技術文書改訂：2014年 ④ ISO/TC215_WG4のISO/TR17991：2013年 JWG7のIEC8000-2-X：2013年 ⑤ IEC823041-1：2014年 ⑥ 国際標準化のあり方の見直し：2012年 ⑦ JAHIS国際標準化総覧：2011年、2013年

中期計画スケジュール					
部門名 : 標準化推進部会					
項目	取り組み方法	平成24年度 2012年度	平成25年度 2013年度	平成26年度 2014年度	平成27年度 2015年度
JAHIS標準化プロセスの改善	①標準化マップ更新	更新	更新	更新	更新
	②JAHIS標準類の策定、改訂審議	随時	随時	随時	随時
国際標準化活動の推進	①各種国際標準化関連国際会議参加報告書類	随時作成	随時作成	随時作成	随時作成
	②HIMSS海外視察催行と報告書:	★ 2月: ツアー催行 報告書	★ 2月: ツアー催行 報告書	★ 2月: ツアー催行 報告書	★ 2月: ツアー催行 報告書
	③国際標準化総覧:		改訂		改訂
JAHIS標準等の普及	パンフレットの作成、ヒアリング		見直し	見直し	見直し
		標準化に対する意識の向上			
ソフトウェア安全性	安全ガイドライン策定、電子カルテ委員会医療安全専門委員会との連携で医療安全向上のための活動	注射編ガイドライン作成 フォローアップ	患者安全に関するリスクマネジメントガイドライン(解説編)の技術文書改訂		

中期計画スケジュール					
部門名 : 標準化推進部会					
項目	取り組み方法	平成24年度 2012年度	平成25年度 2013年度	平成26年度 2014年度	平成27年度 2015年度
患者安全に関わる国際標準規格の策定参加	ISO/TC215への参画およびISO/TC215 & IEC/SC62A合同のJWG7国内作業部会への参画	ISO/TR17991策定に参画 IEC80001-2-X策定に参画 IEC82304策定に参画		IEC82304策定に参画	必要に応じて、 新規国際標準規格に対応
医療情報システムの患者安全に関するリスクマネジメントガイドライン策定	国際標準規格の策定状況を反映して最新情報に更新する		患者安全に関するリスクマネジメントガイドライン(解説編)の技術文書改訂		
単独ソフトウェア薬事対応	JIRA/JEITA/JAHIS三工業会での連携を強化、必要に応じて医機連と連携	JJI、JWG等の会議参			

中期計画基本方針・取り組み方法	
部門名	医事コンピュータ部会
1. 基本方針	<p>JAHIS中計運営方針である 1. 2020ビジョンで描くヘルスケアITの実現に向けた推進 2. 会員企業の工業会参加価値の追求。健全な市場の維持・発展 3. JAHISブランド（存在価値）の向上。永続的な運営基盤の確立 を受けて、医事コンピュータ部会としては、2015年に向け、国民、医療機関、各会員が納得できるIT化を積極的に進めることを基本方針とし、以下の4項目を重点的に取り組む。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①医療制度改革や診療報酬改定／介護報酬改定等のスムーズな対応策を検討し実行する。特に電子点数表、各種マスタについては、改定が電子点数表内で実現されることを最終目標に関係機関と改善を進めていく。また、その活動の中でJAHISとしてのステイタスを上げていく。 ②「新たな情報通信技術戦略」や国の施策の中で、IT活用の目的を明確にしながら関係機関と連携を取り課題解決に取り組んでいく。 ③成熟した医事コンピュータビジネスの活性化を図るために、新規市場動向や新規技術動向等を調査し、会員のビジネス機会拡大に努めるとともに、情報発信、教育に関しても力を注いでいく。 ④医療機関のレセプト電算化は、診療所でも80%を超え、一定の成果を達成したが、引き続きオンライン請求推進を目指して関係機関と連携し、課題解決に取り組んでいく。
2. 取り組み方法	<p>・課題</p> <ol style="list-style-type: none"> ①厚生労働省のHPに掲載されている医科電子点数表はアンケートによるとまだ活用されていない。歯科電子点数表も掲載されたばかりである。アンケート結果を基に問題点を解決し活用できる様に進めることが必要。 ②「新たな情報通信技術戦略」「標準化」を進めるにあたり、医事コンメンバは小規模な会社が多く存在する。会員各社のポテンシャルを意識して方向性を決める必要がある。 ③日本の医事コン市場に飽和感がある。また、長年続けてきた医事会計入門コースに閉塞感がある。 ④レセプト電算が進む中で、紙で残っている提出物、未コード化傷病名、地単事業、返戻等の問題解決が必要である。
	<p>・具体的な対策、担当する委員会・WG・PJ 別紙参照</p>
	<p>・期待できる成果物</p> <ol style="list-style-type: none"> ①スムーズな改定。各会員が有効利用できる電子点数表 ②診療報酬等の制度に関するパイプの確立。通知宛先にJAHIS名が入る ③電子処方せん、お薬手帳、診療明細書。外字対応等の標準化 ④2014年度末には、免除医療機関を除く100%の電子化レセプト ⑤会員が有効利用できる各種マスタの提供 ⑥会員向け情報提供、教育の確立 ⑦医事コン市場の拡大
	<p>・想定される問題点</p> <ol style="list-style-type: none"> ①診療報酬改定、制度改定の動向 ②「どこでもMY病院」等の施策動向 ③WINDOWS 8におけるJIS 90互換の未提供 ④歯科レセプト電子化のインセンティブ ⑤労災、自賠責、県単公費の電子化動向 ⑥マスタ、コードの標準化

中期計画基本方針・取り組み方法	
部門名	医事コンピュータ部会
	<ul style="list-style-type: none">・完了目標時期（マイルストーン）①改定の取りまとめ（各改定時）②電子化レセプト（2014年度末）③電子処方せん等（2014年度末） その他は、随時設定

<医事コンピュータ部会 中期計画活動一覧>

2020	参加 価値	ブ ラ ン ド	活動項目	担当委員会
			1.「医療制度関連」	
	○		① 医療・介護・混合診療等の対応 ・国の方針に適合するシステムを提供する。 ・医療と介護の整合を図る。	全委員会
	○		② 制度改定対応 ・新高齢者医療制度、一部負担金等、国の方針に適合するシステムを提供する。	全委員会
	○		③ 電子点数表の実用化 ・会員各社のチェックとして使用可能とする。 ・改定の一部は電子点数表で通知される。	医科、歯科、マスタ、DPC委員会
	○		④ DPC対応 ・外来、歯科がDPCとなることも想定して対応。	DPC委員会
	○	○	⑤ 厚労省、審査支払機関に頼られる存在となる ・医療IT関連では、必ず声が掛かる様にする。 ・中医協の審議に貢献する。 ・各種通知にJAHISの名前を入れて貰う。	全委員会
			2.「標準化」	
○	○	○	① 医事コンとして「どこでもMY病院」等の対応 ・診療明細書、お薬手帳、領収書の電子化、共通番号制度対応	医科、歯科、調剤委員会
○	○	○	② 処方データの電子化 ・病院、診療所と薬局のやり取りを電子化する。	医科、歯科、調剤委員会
	○	○	③ 処方せん2次元シンボル ・JAHIS技術文書とする。	調剤委員会
	○		④ 外字の対応 ・外字の考え方を整理し、JIS2004対応を行う。	全委員会
			3.「レセプトオンライン請求」	
○	○	○	① 医科、調剤レセプト、オンライン請求完全実施 ・コンピュータ化された医療機関の100%オンライン請求。	電子レセ、医科、DPC、調剤委員会
○	○	○	② 歯科レセ電算普及 ・免除された医療機関を除いてレセ電算率を100%にする。	歯科、電子レセ委員会
○	○		③ 労災、自賠責レセプト等の紙で残っているもののオンライン化 ・病院、診療所からの診療報酬請求は、総て電子化できる方式を確立する。	電子レセ、医科、歯科、調剤委員会
			4.「マスタ類の維持管理と普及活動」	
○	○	○	① 以下のマスタ提供の実施 ・医薬品マスタ・変換テーブル(オーダ、電カルも含めて) ・保険者番号辞書 ・介護給付費単位数表 ・医療材料 ・その他、必要なマスタ	マスタ委員会、介護委員会
			5.「会員サービス」	
	○		① 情報収集、情報提供 ・タイムリーな情報収集、情報提供を実施する。 ・各種通知にJAHISの名前を入れて貰う。	全委員会
	○		② 勉強会及び説明会 ・会員にとって有効な勉強会、説明会を実施する。	全委員会
	○		③ 医療ITの点数化 ・会員の行っている医療ITを少しでも点数化する。	全委員会
			6.「新たなビジネス領域開拓」	
	○	○	① 海外調査団 ・海外の先進事例を視察し国へ意見具申を行う。 ・ビジネス開拓のため海外調査を行う。	全委員会

中期計画スケジュール					
部門名		: 医事コンピュータ部会			
項目	取り組み方法	平成24年度 2012年度	平成25年度 2013年度	平成26年度 2014年度	平成27年度 2015年度
イベント		医療・介護診療報酬改定	新高齢者医療制度(1回)	医療診療報酬改定 レセプトオンライン請求義務化 (最終年度) 共通番号制度(マイナンバー)	介護診療報酬改定
1. 「医療制度関連」	① 医療・介護・混合診療等の対応 ② 制度改定対応 ③ 電子点数表の実用化 ④ DPC対応 ⑤ 厚労省、審査支払機関に頼られる存在となる	△改定	△制度改定	△改定	△改定
2. 「標準化」	① 医事コンとして「どこでもMY病院」等の対応 ② 処方データの電子化 ③ 処方せん2次元シホル ④ 外字の対応	診療明細書、お薬手帳、共通番号制度 等	→	→	
		→	→	→	
		→	→	→	
		→	→	→	
		→	→	→	
3. 「レセプトオンライン請求」	① 医科、調剤レセプト、オンライン請求完全実施 ② 歯科レセ電算普及 ③ 労災、自賠責レセプト等の紙で残っているもののオンライン化				電子レセプト化期
				紙が無くなるまで対応	→
4. 「マスタ類の維持管理と普及活動」	① マスタ提供の実施 ・医薬品マスタ・変換テーブル(オーダ、電カルも含めて) 等	材料マスタ対応		継続対応	→
5. 「会員サービス」	① 情報収集、情報提供 ② 勉強会及び説明会 ③ 医療ITの点数化			臨機応変に対応	→
6. 「新たなビジネス領域開拓」	① 海外調査団 派遣				→

中期計画基本方針・取り組み方法

部門名	医療システム部会
<p>1. 基本方針</p>	<p>施設内及び、施設間の標準化を含む情報共有基盤の整備と、高品質な医療情報システムの実現に向けて調査・準備・整備を行い、健全な市場規模拡大を目指し、国民全員が質の高い医療を享受出来るよう支援する。そのために以下の活動を推進する。</p> <p>(1) 医療システムの付加価値の向上 (2) 患者安全への寄与 (3) 医療システムの更なる普及</p> <hr/> <p>【委員会】 検査システム委員会： (1) J A H I S標準類の策定と改訂、普及活動の推進 ・検査や治療の部門システムの構築の為にHL7やDICOMを用いた規約の策定と改訂及び普及活動の推進 (2) 海外活動強化 ・DICOMなど国際標準化活動への参画、情報収集及び情報発信を強化 (3) I H Eとの連携や支援の強化 ・技術情報の共有と各種イベントの支援活動を強化</p> <p>部門システム委員会： (1) 病棟業務支援システムにおける臨床ニーズの調査、ユーザ向け情報提供の検討、および標準化すべき項目の整理、整備 (2) 物流システムに関するニーズの継続的な調査、(主にソースマーキングを前提とした)運用上の課題、標準化すべき項目の整理、整備</p> <p>相互運用性委員会： 医療情報システムにおける相互運用性確保のための標準化活動を積極的に推進していく。</p> <p>(1) J A H I S標準類の策定、実装システムの検証 ・HL7を用いた各種データ交換規約やガイドラインの新規策定、拡張/見直しテストツールや検証の場の提供 ・HL7普及活動 日本HL7協会や日本I H E協会等との更なる連携強化、他の標準との整合性確保</p>
<p>2. 取り組み方法</p>	<p>【全体】 (1) 標準類の策定と各種実証事業等への積極的な参画を通じて標準システムの普及を推進 (2) 環境変化を分析し、セキュリティの確保および品質向上を推進 (3) 人材の確保育成に積極に取り組み、各委員会活動の更なる活性化を推進 (4) 他部門(J A H I S内、行政、国内他団体、海外組織など)との協調を推進</p> <p>【委員会】 部門システム委員会： (1) 病棟業務 ・病棟におけるICT(連携)の停滞、需要がつかめていない ・連携のための基盤(用語・マスタ類、必要メッセージ等)の未整備 (2) 物流システム ・院内物流運用が施設により異なり、システムの構築に費用が掛かる ・物品の標準的なマスタが存在しない</p>

中期計画基本方針・取り組み方法

部門名	医療システム部会
	<p>セキュリティ委員会： (1) 標準化マップを意識した標準類策定。 (2) 策定した標準類・マスタ等成果物の会員企業にとってのメリット化</p> <p>相互運用性委員会： (1) 医療機関内及び医療機関同士での医療情報の相互運用性確保 (2) 新旧システム間及び他システム間での医療情報の相互運用性確保 (3) 他施設（調剤薬局、検査センター、健診機関等）との医療情報の相互運用性確保</p>
	<p>・具体的な対策、担当する委員会・WG・PJ</p> <p>【電子カルテ委員会】 (1) 患者安全ガイドライン個別編WG ①患者安全（リスクマネジメント）／海外薬事対応を踏まえ、標準化推進部会と連携し、医療安全ガイドライン作成 (2) 診療アーキテクチャ専門委員会 ①CEN13606の理解と地域連携システムへの適用策定 (3) 電子カルテコンテンツ専門委員会 ①治験インタフェース仕様の作成 ②JAHIS基本データセットとEUのデータセットとの比較調査 ③電子カルテデータ移行ガイドラインの策定 ④診察記録情報交換ガイドラインの作成</p> <p>【検査システム委員会】 (1) 検査システム委員会 ①DICOM委員会活動 (委員会・WGへの参加、規格投票、普及推進活動など) ②IHE活動支援 (国際スポンサー活動、開発支援、普及推進活動、コネクタソン支援等) ③放射線治療分野のデータ交換規約作成（放射線治療WG） ④新しい領域への展開 ⑤HL7委員会活動（日本HL7協会、WGMへの参加）に向けた検討 (2) 臨床検査システム専門委員会 ①JAHIS臨床検査データ交換規約Ver3.0普及活動と改定作業 ②臨床検査マスタ（JLAC10）整備と普及活動 ③IHE臨床検査との標準化活動の協調とスポンサー活動 ④遺伝子検査の実態と標準化調査 ⑤POCT（SMBG：self-monitoring of blood glucose含む）標準化調査 ⑥ISO15189対応へのシステム調査 ⑦関連学会、団体との連携 (主な関係先：JCCLS、自動化学会、検査医学会、日臨技、他) (3) 内視鏡部門システム専門委員会 ①内視鏡データ交換規約（Ver2.0）の普及活動 ②内視鏡データ交換規約の拡張 (内視鏡画像やレポートの取り扱い、病理連携などを追加) ③日本IHE協会活動支援 ④病理・臨床細胞部門システム専門委員会との協調 ⑤IHE国際内視鏡のスポンサー活動 (4) 病理・臨床細胞部門システム専門委員会 ①病理・臨床細胞部門システムベンダーのJAHIS参画促進 ②病理・臨床細胞部門の標準化認知度向上 ③他部門との連携 (臨床検査ISO15189対応、内視鏡からのオーダー連携) ④病理・臨床細胞データ交換規約の海外発信 ⑤病理・臨床細胞データ交換規約の実装とコネクタソンの早期実現</p>

中期計画基本方針・取り組み方法

部門名	医療システム部会
	<p>【部門システム委員会】</p> <p>(1) 病棟業務支援システム専門委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・臨床家・研究者との連携を強化し、臨床需要（病棟ICT化、連携）を再調査する ・臨床需要を実現するための必要な標準要素検討（従来計画内容も再検討） <p>(2) 物流システム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・院内物流運用の標準化推進 ・物品標準マスタの策定 <p>【セキュリティ委員会】</p> <p>(1) HPKI電子署名規格のISO規格化。</p> <p>(2) HPKI対応ICカードガイドラインの改定検討。</p> <p>(3) 制定済みJAHIS標準の普及推進</p> <p>(4) シングルサインオン関連ドキュメントの整備</p> <p>(5) 匿名化、仮名化に関するルール化の検討</p> <p>【相互運用性委員会】</p> <p>(1) メッセージ交換専門委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> HIS-薬剤部門メッセージ交換標準化WG HIS-RISメッセージ交換標準化WG 病名情報メッセージ交換標準化WG <p>(2) データ互換性専門委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> 実証実験WG 注射処置標準化WG 基本データセット適用ガイドラインWG
	<p>・期待できる成果物</p> <p>【電子カルテ委員会】</p> <p>(1) リスクマネジメントガイドライン（処方業務編、輸血業務編）</p> <p>(2) 治験インタフェース仕様書</p> <p>(3) 電子カルテデータ移行ガイドライン</p> <p>(4) 診察記録情報交換ガイドライン</p> <p>【検査システム委員会】</p> <p>(1) 検査システム委員会</p> <ol style="list-style-type: none"> ①DICOM最新動向の報告書 ②放射線治療データ交換規約 ③HL7動向調査資料 <p>(2) 臨床検査システム専門委員会</p> <ol style="list-style-type: none"> ①JAHIS臨床検査データ交換規約の最新バージョンならびに普及のための演題資料、投稿資料 ②IHEテクニカルフレームワーク最新和訳 ③POCT標準化動向調査資料 ④遺伝子標準化動向調査資料 <p>(3) 内視鏡部門システム専門委員会</p> <ol style="list-style-type: none"> ①内視鏡データ交換規約 ②内視鏡データ交換規約の英訳 <p>(4) 病理・臨床細胞部門システム専門委員会</p> <ol style="list-style-type: none"> ①病理・臨床細胞データ交換規約 ②病理・臨床細胞DICOM画像規約 <p>【部門システム委員会】</p> <p>(1) それぞれの関連JAHIS技術文書</p>

中期計画基本方針・取り組み方法

部門名	医療システム部会
	<p>【セキュリティ委員会】 (1) 関連JAHIS標準（電子保存、シングルサインオン等） (2) 普及推進セミナー用の説明資料（HPKI、リモートサービス等） (3) 国際標準ISO17090-4</p> <p>【相互運用性委員会】 (1) JAHIS標準類の策定（各種データ交換規約、ガイドライン等） (2) 実証実験報告（各種ツールを含む）</p> <p>・想定される問題点</p> <p>【電子カルテ委員会】 (1) リソース（予算・要員等）の確保 (2) 各部会との連携強化方法 等</p> <p>【検査システム委員会】 (1) JAHIS標準類策定や改訂に関する団体や組織との連携と協調 (2) 標準類作成の為の人員確保 (3) 特に国際標準化活動の為の人材育成</p> <p>【部門システム委員会】 (1) リソース（予算・要員等）の確保 (2) 関係施設・団体、JAHIS内各部会との連携強化方法 等</p> <p>【セキュリティ委員会】 (1) 国際標準化作業における各国との合意形成 (2) JAHIS標準類策定に必要な人材の確保</p>
	<p>【相互運用性委員会】 (1) リソース（予算・要員等）の確保 (2) 人材育成 (3) JAHIS内の各部会との協調 (4) 官学及びお客様からの医療情報標準化に対するニーズの正確な把握 (5) 会員各社の医療情報標準化に対する意識高揚</p> <p>・完了目標時期（マイルストーン）</p> <p>【電子カルテ委員会】 スケジュール表による 【検査システム委員会】 スケジュール表による 【部門システム委員会】 スケジュール表による</p> <p>【セキュリティ委員会】 (1) HPKI電子署名規格のISO規格化。→ 2015年3月 (2) HPKI対応ICカードガイドラインの改定検討。→ 2013年3月 (3) 制定済みJAHIS標準の普及推進→ 随時実施 (4) シングルサインオン関連ドキュメントの整備→ 2012年10月 (5) 匿名化、仮名化に関するルール化の検討→ 2013年3月</p> <p>【相互運用性委員会】 スケジュール表による（各WGで適宜対応） 平成24年度は、内服薬処方せんの記載方法変更（1回量指示や標準用法マスタ等）を考慮し、処方関連の標準類を改版する。その後、注射、放射線、病名等の標準類を制定後3年間を経過する前に見直し、必要に応じて改版する。また「基本データセット適用ガイドライン」については、上記標準類の改訂状況を踏まえて見直す。</p>

中期計画スケジュール					
部門名 : 医療システム部会					
項目	取り組み方法	平成24年度 2012年度	平成25年度 2013年度	平成26年度 2014年度	平成27年度 2015年度
イベント		・医療報酬/介護報酬同時改定 ・地域連携へのインセンティブ付与 ・遠隔医療の普及	・「どこでもMY病院」 第一期サービス提供	・「どこでもMY病院」 第二期サービス①提供 ・対象疾病にかかる地域 連携医療モデルの確立、 ・各地におけるシームレス な地域連携医療ネット ワークの実現	・「どこでもMY病院」 第二期サービス②提供
【電子カルテ委員会】	健康情報自己管理フレームワークの策定	●————→ フレームワークの定着			●————→
	患者安全(リスクマネジメント)／海外薬事対応を踏まえ、標準化推進部会と連携し、医療安全ガイドライン作成	●————→ ガイドライン作成 (処方業務編)	●————→ ガイドライン作成 (輸血業務編)	●————→ ガイドライン保守／普及 活動／他テーマ検討	●————→
	CEN13606の理解と地域連携システムへの適用策定	●————→ 地域連携システムへの適用検討	●————→ 保守／普及活動	●————→	
	治験インターフェース仕様の策定			●————→ 治験データ定義、他標準との整合	●————→ インターフェース仕様の作成
	JAHIS基本データセットとEUのデータセットとの比較調査	●————→ 比較調査／分析			
	電子カルテデータ移行ガイドラインの策定		●————→ 電子カルテデータ移行ガイドラインの策定		
	診察記録情報交換ガイドラインの策定				●————→ 診察記録情報交換ガイドラインの作成

中期計画スケジュール

部門名 : 医療システム部会		平成24年度 2012年度	平成25年度 2013年度	平成26年度 2014年度	平成27年度 2015年度	
【検査システム委員会】	(1)検査システム委員会 DICOM委員会活動	● 計画・実施	● 計画・実施	継続的なDICOM委員会・WG参加		
	放射線治療データ交換規約の作成と普及活動	● データ交換規約作成	● 普及活動	● データ交換規約改訂	● 普及活動	
	(2)臨床検査システム専門委員会 臨床検査データ交換規約普及活動	● 改訂作業	普及活動・臨床検査自動化学会(2回程度/年講演)、医学検査学会等			
	臨床検査マスタ普及活動～(検査項目マスタ:JLAC10)を中心に活動	● 検査IT名称検討	● 検査IT名称認知活動(検査医学会、JCCLに行う)	● マスタ整備&普及活動(検査医学会、JCCL、MEDIS-DCとの連携)		
	POCT標準化動向調査	● 標準化検討WG立ち上げ判断	● データ交換規約作成			
	遺伝子検査標準化動向調査		● 標準化検討 ⇒WG立ち上げ判断		● データ交換規約作成	
	ISO15189動向調査	● JCCL:ISO/TC212国内検討委員会、臨床検査室認定プログラム(JAB)との1回～2回/年の情報交換				
	IHE臨床検査との協調	●				
	(3)内視鏡部門システム専門委員会 内視鏡データ交換規約の拡張	● Ver. 3.0	● Ver. 4.0	● 普及活動		● 普及活動

中期計画スケジュール

部門名 : 医療システム部会		平成24年度 2012年度	平成25年度 2013年度	平成26年度 2014年度	平成27年度 2015年度
項目	日本IHE協会活動支援	●————→ ▲コネクタソン	●————→ ▲コネクタソン	●————→ ▲コネクタソン	●————→ ▲コネクタソン
	病理・臨床細胞部門システム専門委員会との協調(画像、レポート)	●————→			●————→
	(4)病理・臨床細胞部門システム専門委員会				
	日本病理学会での啓発活動(ポスターセッション)	★4月	★4月	★4月	★4月
	日本臨床細胞学会での啓発活動(シンポジウム等)	★11月	★11月	★11月	★11月
	日本テレパノロジー・バーチャルマイクロコピー研究会での啓発活動(報告会)	★12月	★9月	★9月	★9月
	病理・臨床細胞データ交換規約改訂	●————→●————→●————→	●————→	●————→	●————→
		指摘対応 一般メッセージ追加	特殊メッセージ追加		構造化レポート追加
	病理・臨床細胞DICOM画像規約	●————→	●————→		
		WSI(Whole Slide Images) 対応			
DICOM/WG26国際会議	★6月 ★3月	★7月 ★3月	★7月 ★3月	★7月 ★3月	
【部門システム委員会】	病棟ICT化に対する臨床ニーズ再調査(特に看護記録、看護実践用語対応)	●————→ 調査・第一版	●————→ 改版	●————→ 改版	●————→ 改版
	病棟業務支援システムの標準類の整備・他委員会への協力推進(最初はADTから、臨床ニーズにより追加)	●————→ テーマ選定・調査	●————→ 標準類整備	●————→ 改版	●————→ 改版
	物流システムの標準類の整備	●————→ 標準物流運用検討(サプライチェーン)	●————→ 標準マスタ検討	●————→ 改版	●————→ 改版

中期計画スケジュール					
部門名 : 医療システム部会					
項目	取り組み方法	平成24年度 2012年度	平成25年度 2013年度	平成26年度 2014年度	平成27年度 2015年度
【セキュリティ委員会】	HPKI電子署名規格のISO規格化検討	●————→ 原案作成			
	HPKI対応ICカードガイドラインの改訂検討	●————→		●————→	
	制定済みJAHIS標準の普及推進	●……………→		●……………→	●……………→
	シングルサインオン関連ドキュメントの整備	●————→	●————→		
	匿名化、仮名化に関するルール化の検討	●……………→		●————→	
【相互運用性】	HL7を用いた各種データ交換規約やガイドラインの策定(新規) ・JAHIS標準類の策定	●————→ 調査/策定	●————→ 調査/策定	●————→ 調査/策定	●————→ 調査/策定
	HL7を用いた各種データ交換規約やガイドラインの策定(拡張/見直し) ・JAHIS標準類の策定	●————→ 拡張/見直し (処方等)	●————→ 拡張/見直し (注射等)	●————→ 拡張/見直し (放射線、病名等)	●————→ 拡張/見直し (処方等)
	テストツールや検証の場の提供 ・実装システムの検証	●————→ 計画/実施 (実証実験)	●————→ 計画/実施 (実証実験)	●————→ 計画/実施 (実証実験)	●————→ 計画/実施 (実証実験)
	HL7普及活動	●————→	●————→	●————→	●————→
	日本HL7協会や日本IHE協会等との更なる連携強化、他の標準との整合性確保(HELICS申請含む)	●————→ 普及推進	●————→ 普及推進	●————→ 普及推進	●————→ 普及推進

中期計画基本方針・取り組み方法

部門名	:保健福祉システム部会
1. 基本方針	<p>2010年5月に内閣官房IT戦略本部から提示された新たな情報通信技術戦略では、3つの柱と目標が示されており、その中のひとつに「地域の絆の再生」への取り組みがある。それは情報通信技術を活用して2020年までに、「すべての国民が地域を問わずに質の高い医療サービスを楽しむ」ことができることを目標としている。これらのテーマには、自己医療・健康情報活用を前提とした「どこでもMY病院構想の実現」や、地域連携クリティカルパスや医療から介護まで健康に関わる施設間でのシームレスなデータ共用による「シームレスな地域連携医療の実現」、匿名化されたレセプト情報等のデータベースに基づく「レセプト情報等の活用による医療の効率化」などがあり、日本における医療IT活用の将来像の方向が示されている。これらは、地域の医療情報連携や健康支援、保険者、福祉等のシステムを所管する当部会活動のテーマに極めて密着したものであり、今後の更なる推進が期待される。また、子育て支援制度の改正や、高齢者医療制度の制定など、保健・医療・福祉・介護に係る制度・政策の重要な変更・決定が今後数年間に予定されており、政策動向の見極めが重要となる。基本方針を以下のとおりとする。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 今後一層重要となる地域の保健・医療・福祉・介護の連携に不可欠な、ITの活用を前提とした、施設間や多職種間での標準的情報連携・ポータビリティ方法等に関し、関係省庁の事業への参加や行政機関、関係団体への積極的な提言と、業界のビジネス創出。 (2) 『ヘルスケア産業プラットフォーム』等の行政による基盤創造に関する動きを注視しつつ、引き続き関係機関・団体と連携した健診データの標準的な管理・活用に関わるシステムの普及と健康情報活用ビジネスの創出・拡大。 (3) 関係省庁が計画する標準化を前提とした実証事業等に引き続き参画し、臨床現場等で有益（利便性、経済性等）な地域ヘルスケア情報連携システムの標準類の策定と、その実装・普及の推進。 (4) 当該分野での新制度への変更に対応すべく、中長期を見据えた新テーマの設定とこれに対応した部会傘下の委員会・WG・TF等、組織の再編成・中核人材の育成・若手人材活用。 (5) 外部委員会への参画等による積極的な情報収集に基づく会員への情報提供、厚労省や関係機関への積極提言。
2. 取り組み方法	<p>2-1 地域医療情報連携システムの推進 （日本における地域ヘルスケア連携システムの実現）</p> <hr/> <p>・課題</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 地域医療連携システムの実現に向けた導入および運用手順などの確立と地域医療連携システム間のデータ連携などルールの確立 (2) 地域医療連携システムにおける新たな標準化等における業界を通じた啓発活動 (3) 医療と介護の共有すべき情報項目の標準化・連携方法 <p>・具体的な対策、担当する委員会・WG・PJ</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 地域医療システム委員会本委員会 地域医療連携システムの実現に向けた導入および運用手順などの確立と地域医療連携システム間のデータ連携などルールの確立 (2) 地域医療情報連携基盤WG 地域医療連携システムにおける新たな標準化等における業界を通じた啓発活動 <ul style="list-style-type: none"> ・標準技術の普及に向けてWG参加企業への啓発活動の実施 ・各地域の事例（ユースケース）について、情報を収集し、現状、課題などを抽出 ・連携基盤の標準化についての問題を解決するためにあるべき姿を提言 ・連携基盤として標準化をすべき事項について整理

中期計画基本方針・取り組み方法

部門名

: 保健福祉システム部会

(3) テレケアWG

医療と介護の共有すべき情報項目の標準化・連携方法

- ・ 先進事例だけでなく在宅医療・介護に取り組む事例を調査
- ・ ナショナルセンターや学会などの有識者と協議し周辺理解の得られる標準項目の検討
- ・ インセンティブについて評価を得るための医療の質向上のエビデンス収集
- ・ 実証事業等の成果などから持続・拡大可能なビジネスモデルを検討する

・期待できる成果物

(1) 地域医療システム委員会本委員会

- ・ 標準化など業界動向を実現するための勉強会の実施と、会員各社の意見の集約
- ・ 地域医療連携システムの実現に向けた導入および維持に際して留意点などを集約

(2) 地域医療情報連携基盤WG

- ・ 標準化技術のエンジニア育成のための教育カリキュラム
- ・ 地域連携システムでの標準化適用動向及び課題（報告書）
- ・ 標準化適用、標準化項目の保守に対する提言

(3) テレケアWG

- ・ 医療と介護の共有すべき標準項目案
- ・ 医療・介護連携に対するITインセンティブについての検討結果
- ・ モニタリング端末の在宅活用機器の市場拡大についての調査・検討結果

・想定される問題点

(1) 地域医療システム委員会本委員会

地域医療再生基金を背景に先行している地域医療情報連携システムの提案、導入など、最前線の現場における諸問題の把握に際して、理解、認識の乖離の発生など。

(2) 地域医療情報連携基盤WG

既に会員企業において地域医療情報連携システムの構築は始まっており、これらと標準化技術の関連を明確にする必要があるとともに、新たな標準化技術の啓発を進めつつ実態との乖離などを確認フォローしていく必要がある。

(3) テレケアWG

医療と介護の連携に資する標準項目の絞り込みに際して選定基準の明確化が困難な上、ナショナルセンターや学会などの有識者の選定が難しい。また、連携におけるインセンティブを検討する際、根拠性が明確且つ行政機関が納得する医療の質向上など十分なエビデンスが確保しにくい。

・完了目標時期（マイルストーン）

(1) 地域医療システム委員会本委員会

- 2012年度末：会員各社共有のために留意点を初版としてとりまとめ
- 2013年度末：導入事案を調査および評価し改定を以後毎年度実施

(2) 地域医療情報連携基盤WG

- 2012年度：標準技術の普及：教育カリキュラムの作成
国内の事例分析：報告書の作成
- 2013年度：標準化すべき事項の抽出、上程し取りまとめの実施
標準項目の文書化
- 2014年度：標準項目の改定および文書化

(3) テレケアWG

- 2012年度末：
「医療介護連携における標準的情報連携項目検討報告書（仮称）」
- 2013年度末：
2012年4月の診療・介護報酬同時改定の影響を踏まえた
「インセンティブ検討報告書（仮称）」取りまとめ実施

中期計画基本方針・取り組み方法

部門名 : 保健福祉システム部会

2-2 健康支援・健康情報活用システムの実現

・課題

- (1) 健康支援システム市場や周辺市場の動向調査
- (2) 特定健診を含む包括的な健診データ交換規約の策定
- (3) 健康情報活用基盤関連での種々の課題検討
- (4) 特定健診等のルール変更への円滑な対応の実現

・具体的な対策、担当する委員会・WG・PJ

- (1) 健康支援システム委員会本委員会
 - ・健康支援関連システム関連市場や、同システムに蓄積されるデータの利活用動向調査を行う。
- (2) 健康情報技術WG
 - ・特定健診に加え、日帰り人間ドック、宿泊人間ドック、定期健診、協会けんぽ健診等に対応可能となる健診データ交換規約を策定する。
- (3) 健康情報活用基盤検討WG
 - ・各種モデル事業等において報告された標準化検討結果等の課題を実装観点で検討する。
- (4) 特定健診等対応WG
 - ・厚労省検討会、WG等での議論を共有すると共に、システム観点での分析や提言を実施する

・期待できる成果物

- (1) 各種調査レポート、健康支援システム委員会ビジョン（仮称）
- (2) 新健診データ交換規約→HL7協会と連携しHELICS等への対応
- (3) 健康情報活用基盤技術検討書→JAHIS標準案
- (4) JAHIS関連ページへの解説資料掲載

・想定される問題点

- (1) マンパワー不足、市場規模が広がらないことによる関心の低下
- (2) HELICSへの審議遅れ（事前調整のレベルが読み切れない）
- (3) 検討原案のSCOPEが曖昧すぎて、実質的に全面的な修正・作成が必要となること
- (4) 厚労省検討会での議論遅れ、JAHIS他部会とのスタンス調整

・完了目標時期（マイルストーン）

- (1) 各年度末～次年度初頭。 ビジョンは2013年度
- (2) 2012年度中
- (3) 2012年度上期、標準案は2013年度初頭
- (4) 2012年度9月より随時公開

中期計画基本方針・取り組み方法

部門名	:保健福祉システム部会
	<p>2-3 福祉、介護システムの推進</p> <p>・課題</p> <p>(1) 高齢者医療制度や介護保険制度変更、障がい者総合福祉法、子ども・子育て分野の新たな制度等への対応で、円滑に運営するための市町村システムの仕様整備に向けた提言。</p> <p>(2) 新制度、制度変更での実現可否、スケジュール、新制度対応の開発期間など</p>
	<p>・具体的な対策、担当する委員会・WG・PJ</p> <p><介護保険事務処理システムWG></p> <p>・2013年度、2015年度の制度改正にむけ、積極的に情報収集を行う。また、厚労省・国保中央会などと定期的な意見交換を実施し、IT開発ベンダーとしての提言を働きかける。</p> <p><高齢者医療制度WG></p> <p>・後期高齢者医療制度の廃止／見直しにかかる政府検討会議にオブザーバとして参画し、適切な提言を行う。厚労省・国保中央会などと定期的な意見交換を実施する。</p> <p><高齢者医療制度TF></p> <p>・2018年度に国保を都道府県単位で圏域化されることを想定し、情報を収集する。新制度の内容については、周知徹底をはかるため積極的に勉強会を企画し、実施する。</p> <p><障がい者自立支援WG></p> <p>・障害者総合福祉法が2013年度8月までに施行されることを踏まえ、内容について厚労省・国保中央会と共同でインタフェースの変更を行う。また最新情報をWGメンバへ情報提供を行う。</p> <p><介護事業者連携WG></p> <p>・医療と介護のシームレスな地域連携における情報連携の必要性を考慮し、介護の事業者からみたデータ連携の検討を行う。厚労省・国保中央会などと定期的な意見交換を実施する。</p> <p><子ども手当検討TF></p> <p>・子ども手当に関しては、2012年度に施行される新制度の施行後の状況を見ながら今後の動きを検討する。</p> <p><新子育てシステムWG></p> <p>・税と社会保障一体改革のスケジュールに記載されている「子ども・子育て新システム法案」の法案成立を睨んだ動きを今後検討する。</p>
	<p>・期待できる成果物</p> <p><介護保険事務処理システムWG></p> <p>・制度改正における都道府県・市町村・事業所システムのインタフェース仕様書の改版 (厚労省・国保中央会と共同でシステムに係わる検討会議を設置)</p> <p><障がい者自立支援WG></p> <p>・新制度施行における都道府県・市町村・事業所システムのインタフェース仕様書の改版 (厚労省・国保中央会と共同でシステムに係わる検討会議を設置)</p> <p><介護事業者連携WG></p> <p>・制度改正に対応した事業者間の新たなインタフェース標準規約</p>

中期計画基本方針・取り組み方法

部門名	:保健福祉システム部会
	<p>・想定される問題点</p> <p>(1) 制度決定、改正が政治主導でなされるため、その後の事務レベルでの詳細決定にはさらに時間がかかる可能性があり、ともすれば今まで以上にタイトなスケジュールでの開発要求につながりかねない。制度を施行する上で必要なシステムを円滑に運用していくためにも情報収集・提言活動及び会員各社へのフィードバックが重要である。</p> <p>(2) 政局（ねじれ国会）についてのリスク</p> <p>・完了目標時期（マイルストーン）</p> <p><介護保険事務処理システムWG、新高齢者医療検討WG></p> <ul style="list-style-type: none"> ・制度決定・変更が施行され、制度が安定するまで。 <p><障がい者自立支援WG></p> <ul style="list-style-type: none"> ・2013年4月～8月末まで：障害者総合福祉法施行まで。 <p><介護事業者連携WG></p> <ul style="list-style-type: none"> ・2013年3月末：介護事業者連携IF策定。

2011年度 中期計画スケジュール		(保健福祉システム部会)							
		平成22年度(参考)	平成23年度(参考)	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度(参考)	
国の新たな情報通信技術戦略		2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	...
地域の 絆の 再生	: 保健福祉システム部会	2020年までに情報通信技術を活用することにより、すべての国民が地域を問わず、質の高い医療サービスを受けることを可能にする。							
	「どこでもMY病院」構想の実現 (自己医療・健康情報活用サービス)	「どこでもMY病院」構想の枠組み検討 電子的医療・健康情報の整備			個人に向けたサービスの段階的提供 ・電子版「お薬手帳／カード」(2013年度) ・個人参加型疾病管理サービス(2014年度)				
	シームレスな地域連携医療の実現	地域連携医療情報ネットワークモデル構築と運用、検証				地域連携医療モデルの確立 各地におけるシームレスな地域連携医療ネットワークの実現 在宅における医療介護連携モデルの実現			
	レセプト情報等の活用による 医療の効率化	レセプト情報・特定健診情報等について、第三者提供の試行期間として運用			DPCに関するデータの医療現場での利活用 医療の効率化への活用				
	医療情報DBの活用による 医薬品等安全対策の推進	医療情報データベース基盤整備事業(10拠点におけるデータベースの設計・構築) 副作用情報の抽出等について試験運用				安全対策・研究開発への本格的活用			
		2020年までに、高齢者などすべての国民が、情報通信技術を活用した在宅医療・介護や見守りを受けることを可能にする。							
	高齢者等に対する在宅医療・介護、 見守り支援等の推進	見守りに必要な健康・医療・介護情報の標準化	医療報酬・ 介護報酬 同時改定	在宅医療・介護ネット ワークの構築に向けたモ デルプラン実施	在宅における医療介護連携				
	高齢者、障がい者等に優しい ハード・ソフトの開発・普及	官民連携による、必要なハード・ソフトの研究開発・実証					高齢者・障がい者に優しいハード・ソフトの普及促進		
テレワークの推進	様々な働き方を希望する者の就業機会の創出及び地域活性化等に資するテレワークの一層の普及拡大に向け、環境整備、普及啓発等を推進								

中期計画スケジュール

部門名 : 保健福祉システム部会					
項目	取り組み方法	平成24年度 2012年度	平成25年度 2013年度	平成26年度 2014年度	平成27年度 2015年度
地域医療		<ul style="list-style-type: none"> ▲医療介護の同時改定 ▲医療情報化促進事業 (前年度から継続) ▲日本版EHR実証事業 (前年度から継続) 	<ul style="list-style-type: none"> ▲医療情報化促進事業終了年度 ▲医療再生基金最終年度 ▲次期保健医療計画～ 	<ul style="list-style-type: none"> ▲保健医療計画改定 (5疾病6事業) ▲診療報酬の改定 	<ul style="list-style-type: none"> ▲介護報酬の改定
1.地域医療情報連携システムの推進	地域医療システム委員会	<ul style="list-style-type: none"> ●地域医療システム導入に関する留意など整理上程 	<ul style="list-style-type: none"> ●医療介護同時改定後の影響など収集 (テレケアWGと連動↓) ●次期診療報酬改定などのサーチ ●国プロにおける成果などの共有実施 (基盤検討WG↓) 	<ul style="list-style-type: none"> ●再生基金後の地域連携経過追跡 ●次期介護報酬改定に対するアプローチなど検討 (テレケアWGと連動↓) ●左記啓発活動 (基盤検討WG↓) 	<ul style="list-style-type: none"> ●診療報酬改定に影響など収集
		<ul style="list-style-type: none"> ●地域医療システムに関連する標準化など啓発活動 (年1回程度勉強会実施) 			

中期計画スケジュール

部門名		保健福祉システム部会			
項目	取り組み方法	平成24年度 2012年度	平成25年度 2013年度	平成26年度 2014年度	平成27年度 2015年度
	シームレスな地域医療情報連携システム				
	地域連携アーキテクチャ検討 地域連携パス、ワークフロー、クラウド、SOA、等 地域医療情報連携基盤WG	地域内医療情報共有の アーキテクチャモデルの設計	病院内情報システムと地域 内連携システムとの連携の 検討	運用開始された地域連携 に関わる様々なシステム の調査と発展の方向性 の検討	
		脳卒中連携パスプロジェクト の検証とXDS、CDA、 HL7V3の理解と普及	IHE-ITIと日本の制度 地域連携プロジェクトへのIHE- ITI適用可能性の検討 ⇒標準化提言のまとめ		
		IHE地域医療連携情 報システム構築ハン ドブックの学習	前年学習したハンドブックによ るシステム構築の実践 ⇒JAHIS技術文書の改訂		
			医療情報連携のインセンティブに向けた検討		
	在宅医療システム テレケアWG	医療と介護の共有すべき 標準項目案の提示 ⇒検討報告書として上程	情報共有の実態などの 把握 センサー等と連動したビ	病院内システムとの地域 内連携などの検討	
		医療介護連携インセン ティブの検討	データの収集と検証 次期改定に向けた検討 ⇒検討報告書として上程		
		モニタリング端末など在宅健 康・医療機器などの調査	新規ビジネスなど検討 ⇒検討報告書として上程		

中期計画スケジュール						
部門名		保健福祉システム部会				
項目	取り組み方法	平成24年度 2012年度	平成25年度 2013年度	平成26年度 2014年度	平成27年度 2015年度	
健康支援		特定健診等実施基準見直しとシステム改修	特定健診等新実施基準適用開始	個人参加型疾病管理服务提供開始		
2.健康支援システムの推進	健診・健康づくりに関連した市場動向や関連公的事業の情報収集・配信					
	委員会本体	A) 意見交換会・講演会	●—————→	●—————→	●—————→	●—————→
		行政・保険者団体等を中心とし、他工業会や著名ユーザーの招聘も行う				
		B) 委員派遣・講師派遣	●—————→	●-----→	●-----→	●-----→
		医療費適正化計画や特定健診等データ分析への対応				
C) 年度調査	●—————→	●-----→	●—————→	●-----→		
		健康支援システム調査 (隔年)	健康支援システム ビジョン策定	健康支援システム調査 (隔年)	特別テーマ (随時決定)	
D) 行政動向フォロー	●—————→					
		健診や「どこでもMY病院」に関連した動きに加え、「ヘルスケア産業プラットフォーム」をフォロー				

中期計画スケジュール

部門名 : 保健福祉システム部会					
項目	取り組み方法	平成24年度 2012年度	平成25年度 2013年度	平成26年度 2014年度	平成27年度 2015年度
	特定健診・保健指導に関連した標準様式への対応				
	特定健診等データ対応WG	A) 階層化ルール等変更に伴う情報システムへの影響検討・通知等への反映 ● → 厚労省W			
		B) 解説資料等の作成・JAHISホームページ等での公開 ● →			
		C) 変更後フォロー(アンケート他) ● → ベンダー及び事業者へのアンケート実施、集計結果公表			
		新ルールの安定を見届け、2013年度終了時点で、一度WGを解散する。			
	特定健診でカバーされていない健診項目などについての標準化ルール検討				
	健康情報技術WG	A) 健診データ交換規約の更新 ● → 2012年度中の国内標準化委員会への上程			
		B) その他 標準化必要項目の検討 ● →			
		C) 特定健診関連作業の吸収 ● →			
	健康情報基盤に関する標準化対応				
		A) 実装課題・運用課題対策を加味した標準原案作成 ● → 技術文書 → ● → JAHIS標準案 →			
		健康情報技術WGの負荷を見極めつつ、中期的には運営を一体化し効率化を図る			
	その他				
		A) 医療機器・健康管理機器との融合に関する新テーマの推進 ● →			
		他工業会とも連携し、情報システムと機器の融合やライトユースでの規制のあり方について議論を行う勉強会を定期的開催する。行政に対しても参加を呼びかける。特に海外における規制やビジネスモデルへの影響について重点的に取り扱う			

中期計画スケジュール

部門名		保健福祉システム部会			
項目	取り組み方法	平成24年度 2012年度	平成25年度 2013年度	平成26年度 2014年度	平成27年度 2015年度
福祉、介護のイベント		★介護保険制度改正 ★自立支援整備法対応	★介護保険制度改正？ ★高齢者医療制度？ ★障がい者総合福祉法 ★新子育てシステム法？		★介護保険制度改正 ★国保圏域化？ ★総合合算制度？
3.福祉、介護関連システムの推進	介護保険法改正対応 ○介護保険事務処理システムWG	★H24年制度改正 ●……→ 情報収集 ●……→ 情報収集	★介護保険総合データベース ★H25年制度改正？ ●	●……→ 情報収集 ●……→ システム開発	★H27年制度改正 ●……→
	○介護事業者連携WG	●……→ IFの作成／標準化	●……→ 情報公開		
	新高齢者医療制度創設への対応 ○新高齢者医療制度WG ○新高齢者医療制度TF	●……→ システム開発 ●……→ 情報収集	●……→ ★新制度へ移行？ ●……→ インターフェース策定／公開	●……→ システム開発	★国保圏域化？ ●……→
	障害者自立支援法改正 ○障害者自立支援WG	●……→ ★制度改正（整備法対応）			
	障がい者総合福祉法設立への対応 ○障害者自立支援WG	●……→ ★法案成立 ●……→ インターフェース策定／公開 ●……→ システム開発	●……→ ★(H25.8)新制度施行		

中期計画スケジュール

部門名 : 保健福祉システム部会					
項目	取り組み方法	平成24年度 2012年度	平成25年度 2013年度	平成26年度 2014年度	平成27年度 2015年度
	子ども手当法対応 ○子ども手当検討TF	★新子ども手当制度 ●……………→			
	新子育て法案対応 ○新子育てシステムWG		★新制度施行? ……………→		
		システム開発			

中期計画基本方針・取り組み方法	
部門名	事業推進部
1. 基本方針	<p>事業推進部は各部会の横断的な協力を得て、JAHISの組織・人材・知識を最大限に活用することによって、下記の業務の健全な運営と発展を目指す。なお、本会の広報活動を支援する観点で、会員のみならず会員外についてもその範囲とする。</p> <p>(1) 収益事業に関する事項 (2) 展示会、博覧会等に関する事項 (3) 出版、情報提供等に関する事項 (4) 教育、セミナー、講習会等に関する事項 (5) 学術団体、その他の関連団体との協調に関する事項 (6) その他本会の目的達成に必要な事項</p>
2. 取り組み方法	<p>・ 課題</p> <p>①教育セミナーにおける会員ニーズを踏まえたコース内容の充実 ②他団体との共催による新規セミナーの実現 ③対会員および対外部への情報発信のためのJAHIS主催セミナー企画 ④展示博覧会に出展する会員からの改善要望の集約と反映</p> <p>・ 具体的な対策、担当する委員会・WG・PJ</p> <p>(1) 【事業企画委員会】 ①新規事業計画の立案／立ち上げを行う。 ②出版事業（教科書）を推進する。 ③各種団体との協力による活動を推進する。 ・ JAMIなどの学術団体との共催セミナーの企画を具体的に検討する。 ④JAHIS自主セミナーの開催を計画する。 ・ 新たなセミナー、教育コースの導入トライアルを行う。</p> <p>(2) 【教育事業委員会】 ①医療情報システム入門コースの内容拡充を図る。 ②医事会計システム入門、保健福祉システム入門コースにおいて、関連部会と連携して内容拡充を図る。 ③電子カルテシステム導入プロセス研修の内容拡充を図る。 ④事業企画委員会での新コーストライアル結果を受け、教育コースへの導入と拡充を行う。</p> <p>(3) 【ホスピタルショウ委員会】 ①各年度の出展活動を行う。 ②JAHISブース出展企画の強化・効果向上を図る。 ③NOMAとの連携強化と出展企業増加に向け、働きかけの強化を図る。 ④来場者への新規入会募集・対応の強化を図る。 ⑤出展会員各社の来場者への訴求を支援する。</p> <p>(4) 【日薬展示委員会】 ①各年度の日本薬剤師会学術大会併設OA機器展示の出展取り纏めを受託すべく県薬剤師会への働きかけを早期に始動する。 ②集客方法・運営方法などにおいて、出展社の満足度向上を図る。 ③委員会の年間詳細活動スケジュール・役割等の書面化、ルーチン化を行い、円滑な運営を図る。</p> <p>(5) 【学術団体協調活動】 ①医療情報学連合大会における実行委員活動（会場運営への協力によるJAMIとの関係強化）を、事業推進部の実施事業として予算化し、年間活動計画に織り込む。</p>

中期計画基本方針・取り組み方法

部門名	事業推進部
	(6) 【展示博覧会取り組み検討活動】 ①展示博覧会に出展する会員からの改善要望と課題を集約する。 ②会員にとって、あるべき展示博覧会の形態と可能性、それに向けたシナリオ等を検討する。
	・期待できる成果物
	・想定される問題点
	・完了目標時期（マイルストーン）

中期計画スケジュール					
部門名 : 事業推進部					
項目	取り組み方法	平成24年度 2012年度	平成25年度 2013年度	平成26年度 2014年度	平成27年度 2015年度
事業企画委員会	①新規事業計画立案／立ち上げ	●————→ 計画・実施	●————→ 計画・実施	————→	————→
	②出版事業(教科書)	●————→		●————→	
	③各種団体との協力活動	●————→	●————→		●————→
	④JAHIS自主セミナー セミナー・教育コース等トライアル	●————→		●————→	
教育事業委員会	①医療情報入門コース 内容拡充	●————→ 計画・実施	●————→ 計画・実施		————→
	②医科、保健福祉入門コース 内容拡充	●————→ 計画・実施	●————→ 計画・実施		————→
	③電子カルテシステム導入 プロセス研修 拡充	●————→ 計画・実施	●————→ 計画・実施		————→
	④新コースの導入と拡充	●————→ 計画・実施	●————→ 計画・実施		————→
ホスピタルショー委員会	①各年度出展活動	●————→			————→
	②JAHISブース出展企画強化・効果向上	●————→	●————→	●————→	●————→
	③NOMAとの連携強化に向けた出展企業増加の働きかけ強化	●————→			————→
	④来場者への新規入会募集・対応強化	●————→	●————→	●————→	●————→
	⑤出展会員各社の来場者への訴求を支援	●————→	●————→	●————→	●————→

中期計画スケジュール

部門名 : 事業推進部

項目	取り組み方法	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
		2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
日薬展示委員会	①各年度OA機器展示取り まとめ受託事業	● →	● →	● →	→
	②出展社の満足度向上	● →			→
	③活動スケジュールのルー チン化	● →	→		
学術団体協調活動	①医療情報学会連合大会 実行委員活動	● →	● →	● →	● →
展示博覧会取組み検討活 動	①会員の改善要望と課題 の集約	● →			
	②あるべき展示イベントの 形態、シナリオ検討	● →	→		